

地図が広げる未来の可能性

岐阜大学教育学部附属小学校の「なんでだろう」「ほら、やっぱり！」



杉浦 孝志

すぎうら こうじ

岐阜大学教育学部附属小学校教諭

1979年愛知県生まれ。2002年岐阜聖徳学園大学教育学部中等教育課程社会専攻卒業。2003年4月より岩村町（現・恵那市）立岩邑小学校、2006年4月より可児市立今渡南小学校、2009年4月より現職。

左ページ写真提供：杉浦孝志先生

2011年（平成23）1月9日から2月20日まで、茨城県つくば市の国土交通省国土地理院「地図と測量の科学館」で第14回全国児童生徒地図優秀作品展が開催された。地図離れ、社会科離れが心配される中、オリジナリティにあふれた作品が並び、子どもたちの力に目を見張った。

どうしたら、このように子どもの意欲を育めるのか。文部科学大臣賞を受賞した松永悠彦君の指導教諭、杉浦孝志先生に社会科教育の「今」をうかがった。

地図を開く習慣を

私は2009年（平成21）の4月から当校に赴任し、2年続けて4年生を担当しました。

4年生では、岐阜市や県のことを学習します。自分たちの飲んでいる水道水はどこからきているんだろうとか、その水道水はどういう過程を経て蛇口まできているんだろうとか、ゴミの処理のこと、あとは地域の消防や警察の働き、県全体の特徴をとらえたり、といった授業をしています。ですから、かなり地図を使う機会が多い学年といえます。

ちょうど4年生から地図帳が教科書として配布されるんです。最初は、地図帳の使い方から始めます。場所を調べるときにどうするかを教えるわけですね。

例えば、ここでは鏡岩水源（長良橋上流・金華山際にあり、岐阜市南部地区への上水道の水源。1930年（昭和5）に建設された旧ポンプ室と旧エンジン室は、国の登録有形文化財）から水道水がきているんですが、「じゃあ、鏡岩ってどこだろう」と地図を開いてみる。

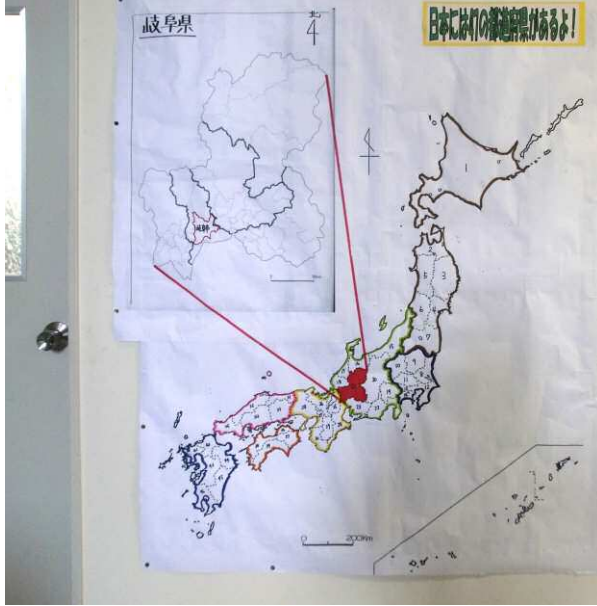
とにかく授業では、地図を見る機会を増やすようにして、ことあるごとに地図帳を開くことを習慣づけるように指導しています。

今年の4月から、学習指導要領が改訂になります。社会科では、小学校卒業までに47都道府県の位置と名称を使いこなせるようにする、という課題があります。自分の経験からいえることですが、やはり、「社会科イコール覚える」というイメージがありますよね。

それで「社会は難しい」「嫌いだ」という風になりがちなんです。みんなに聞くと、「覚えるのが難しい」と言うので、「社会科っていうのは覚えるんじゃないかって、考える授業だからね」と教えるようにしています。考える手がかりとして、知識がある。それをどういう風に子どもたちに伝えていいたらいいかな、と考えています。

4年生に向けて、階段を上がってきてちょうど正面に当たる壁に、地域ごとに分割した日本地図を掲示しました。

教室では、正面を向いたときに、8方位がわかるように掲示がしてあります。こういう工夫をしている社会科の教師は多いですね。僕は、子どもが地図を見て「上、下、右、左」というのがすごく気になります。地図を使うからには、ちゃんと「東西南北」と言っておきたい、という想いがあるからです。これも知識としてはなく、自然に身についたらいいな、と。自分の子どもたちの学校には、西



と東と南に門があつて、僕は南門から入つて登校していったんですが、南から入ると北を向くじゃないですか。それで北を向いたときに、東はこっちで西はこっち、と方角を覚えなりました。「東はどっちかな」と考えたときに、目をつぶると、今でもその情景が浮かんでくるんですよ。そうすれば、覚えようとしなくても身につく。その効果を狙っているんです。

見たり触れたりすることで、自然と入ってくるものを身につけさせたい。覚えるんじゃないかと、自然に出てくるものが育まれたらいいな、という想いがあります。地図が身近なものであつてほしいなあ、と。

また、三川公園(国営木曾三川公園)に行つて、地域を開発した偉人について調べたりします。そういうときも、帰ってきてから「あのときに行った海津市ってどこにあるんだらうね」とすぐに調べる習慣をつけています。

岐阜にとつての長良川

「岐阜県のことを調べる」という課題があります。県のことをまじめた副読本を利用して、岐阜市外から通つてきている子どもたちの住んでいる地域にまで、興味の対象を広げていきます。

1学級に生徒数は40人で、男女比は20人、20人の同数です。岐阜大学教育学部の附属小学校ということで、抽選で男女同数が入ってくるんです。岐阜市以外から通つてくる子どももいますから、普通の公立小学校とは違う、特殊な環境ですね。4年生の単元では、

3年生で岐阜市の学習をするときには、鵜飼を取り上げます。4年生になつて県のことを学習するときは、自分の市以外のことを二つ取り上げて学ぶんですが、岐阜市外の児童が多く選ぶのは、やはり鵜飼です。

は考えられませんが、僕は岐阜市に赴任して2年になります。岐阜のことを児童と一緒に話しているときにたどり着くのは、やはり水や川とのかかわりが占める部分が大きい。

この学校がある加納という地域は、和傘の産地なんです。岐阜駅にも、和傘に因んだデザインが取り入れられています。その和傘に使う和紙は、美濃でつくられ、長良川を利用して運ばれてくる。木材も郡上からやってきます。このように昔から川とともに生きてきた。江戸時代には、長良川で捕つた鮎は、鮎鮎にして鮎鮎街道を通じて、將軍家に奉納されていました。

ただ、授業では積極的に取り組んでいっても、実際の生活になると、「…」というのも事実です。岐阜市は水道水に地下水を利用しているのですが、浄水場がないんですよ。この辺り一帯では、浄水場の存在を聞いたことがないですね。清流といわれる長良川の伏流水を汲み上げて、簡単に消毒している

だけで飲めてしまう。安全に供給できるように検査はかなりのポイントで行なっています。市役所で、備蓄用に「長良川のしずく」というタップウォーターも売っています。

その伏流水ものすごく豊富なので、岐阜市というのは、実は水不足を体験していません。本当に水の恩恵に与っているんです、それが当たり前で感謝する気持ちに乏しいことも事実です。

興味を引き出す

子どもですから、興味のあることには積極的に取り組みます。無理やり覚えさせるようにすると拒否反応が出る子もいるので、できるだけ自然に興味を湧くように指導していきたいと思っています。

5年生は毎年、高山に研修に行くんですが、その事前準備を兼ねて、4年生で高山の場所を地図で確認します。

町村合併もここきて一段落した感があります。来年には教科書が変わる関係で副読本も変わるんですが、そのタイミングで新しい市町村名が反映されるでしょう。合併前は確か99市町村だったのが、今は42になりました。淡墨桜で有名な本巣市も、本巣郡にあった本巣町、真正町、糸貫町、根尾村の

4町村を合併してできた市です。

副読本は上手にできていて、現在使われている副読本は2009年(平成21)につくられたものなんですが、1999年(平成11)段階の市町村と比較できるようになっています。やはり子どもたちはそれを見ると、なんでこうなったんだらうと疑問に思うようので、興味を引かれて調べるみたいです。

土地利用図で地形も

岐阜県には、飛山濃水という言葉があります。飛山のほうは山に恵まれた生活をし、美濃のほうは木曾三川を中心とした水とのかかわりのある生活をしている、ということを言い表わしています。

飛山濃水 飛驒の山、美濃の水という意味。岐阜県は、1876年(明治9)岐阜県に含まれる旧・美濃国と筑摩県の中の旧・飛驒国が合併してできた(旧・信濃国は長野県に合併。当初は旧・飛驒国と旧・美濃国との対立を表わす言葉であったが、現在は岐阜県の自然を表現する言葉として、肯定的に使われるようになった。

土地利用図を見ても、一目瞭然なんですね。それだけで1時間授業ができるぐらいです。

地図の中で川の占める位置は大きくて、昔は何を運ぶにも舟運が活用されましたから、産業を学ぶ中で「こんなに多くの材料をどこから持ってきたのだらうね」と言

って地図を見ると、必ず主要な川が流れていることに気づかされま

一つひとつの事象をただ覚えるのではなく、事実と事実をつなげて考えることができるようになるのが大切なことです。

白川茶のことを学ぶときにも、航空写真や等高線の入った地図を見せると、「山がたくさんある所」ということに気づく。茶畑の位置が書かれた透明シートをそれに重ねて、土地利用を知る、という手順を踏みます。どこかの地域を学ぶときは、まず地形と土地利用から入るんです。

そうすると中には「先生、岐阜市ってどうなってるの」という子が出てきて、岐阜市と白川町の地図を比較して見たりしました。

人口も必ず調べるようにしていますから、「やっぱり岐阜市に比べると人口が少ないね」ということに気づいていく。「山が多いから住める所が少ないからかな」とかいう気づきも出てきます。白地図に表現することで、「岐阜市から見ると北東の方角にあるね」と位置関係を把握したり。地図を見ていると、本当に発見の連続です。

「博士勉強」が良いモデルに

岐阜県図書館の中に、地図のこ

とを専門的に研究している機関として「世界分布図センター」がありました。土地利用図はそこがつくっています。2010年(平成22)4月に組織が変わって、「郷土・地図情報担当」になっています。

岐阜県はここが中心となって活動していたこともあって、社会科教育の中で、地図についての教育が熱心に行なわれてきたんじゃないかと思えます。こういう背景があるから、国土地理院の全国児童生徒地図優秀作品展なんかも、岐阜の作品が多いのかもしれない。

当校では夏休みの自由研究を、1作品1研究と位置づけていて、それを「博士勉強」と呼んでいるんです。子どもたちは、幅広い中から自由にテーマを選んで取り組んでいるのですが、地図をテーマに研究する子もいます。

地図を「博士勉強」のテーマにする子は、全校生徒720人の内で40人から50人ぐらいでしょうか。今年度(第14回)の文部科学大臣賞を受賞した松永悠彦君のようにフールドワークをして研究する子もいれば、鮎鮎街道の歴史的なことを調べた子もいます。

岐阜に限らず、全国の物産を調べて白地図に表現したり、世界の国旗を全部調べたり。ですから、実は僕が松永君の作品を直接に指

導したわけではないんです。

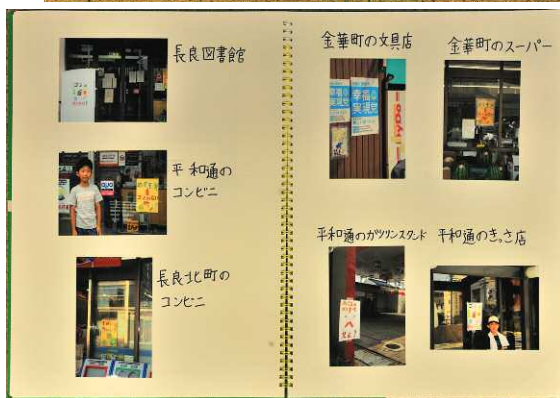
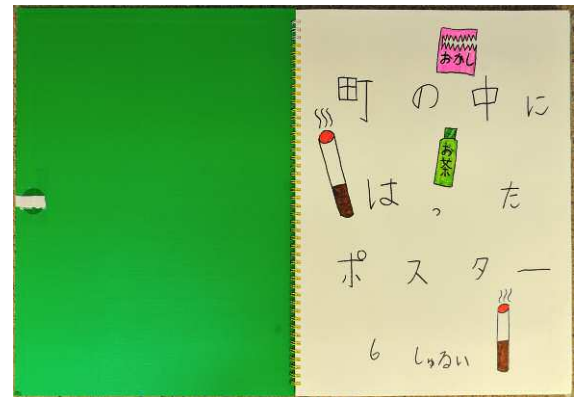
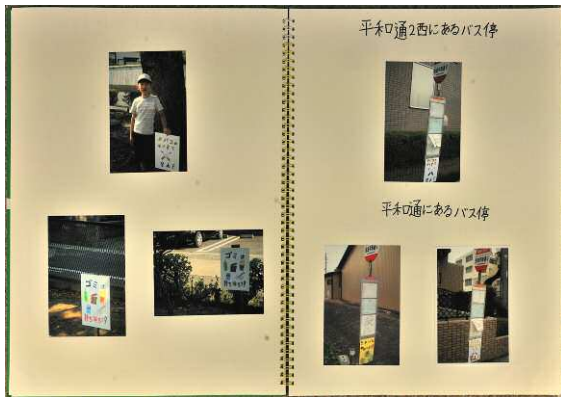
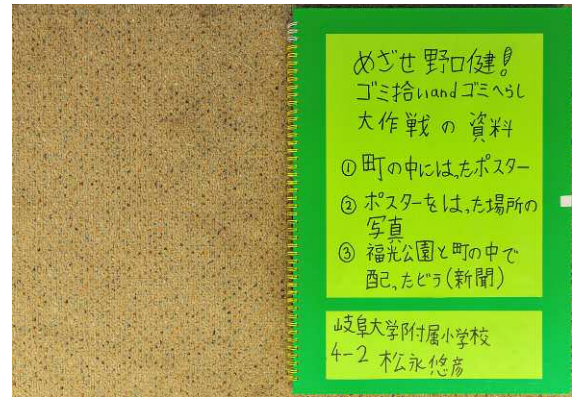
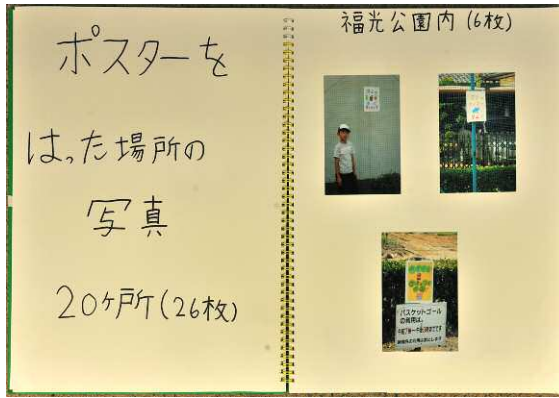
そうした研究のいくつかは、先程言った「世界分布図センター」で行なわれていた児童生徒地図作品展に出展されます。そこから選ばれた研究が、全国児童生徒地図優秀作品展に出展されます。

この学校の生徒は、上級生がそういう賞をもらったり、面白いテーマに取り組んで素晴らしい地図作品につくり上げているのを見てきたものですから、知らず知らずの内にレベルアップしていったのかもしれない。

表現として、紙を重ねて階層をつくることなどは、多分、先輩たちの作品を見ているうちに学んだことかもしれません。

興味のある子は、わざわざ岐阜県図書館に行きますし、毎年夏休みが終わると、全校生徒の「博士勉強」が学内で発表、展示されますから、良い刺激になっていくはずなんです。募集して、「博士勉強」の中から県や国土地理院に持っていきます。県の展示を毎年見て、全国の展示も見てきているので、モデルケースから学ぶべき点を吸収しているでしょう。

岐阜県の伝統かもしれません。夏休み明けの登校日に「博士勉強」を持ってきて、「こういうことをやったよ」とクラスに2、3日展示したら、全校展示を1週



町の地図の作品に添えられたスケッチブックには、活動に使われたツールや記録写真が並べられている。写真からは、家族ぐるみで取り組んだ様子がうかがえる。内容のある活動だからこそ、より高いレベルの作品に仕上がる。(撮影協力/岐阜県立図書館)



間ほどします。このときには、親御さんにも見ていただくようにしています。

未来を予測する力

松永君の発表は、仮説があつて、挑戦したことを表現して、評価するところまでやっています。このように、社会の学習を通じて、一つの事実を見つけるだけではなく、事実から課題を導き出して考えを持つことを目指しています。それに加えて、「自分にとつてどうなのか」だけではなく、「誰々さんにはこうすべきだ」というところまで、社会の勉強を広げていこうとしています。もちろん段階的に

ですが。

本巢市の淡墨桜の学習のときには、単元全体の課題として、この先、本巢市の人たちは淡墨桜をどう守っていくべきなの？ ということについて、授業の中でいろいろなアイデアを出し合いました。この学習をしたのは1月なんです。春の開花の時期に親に「淡墨桜を見に連れて行って」と頼んで、実際に見に行った子どもや、「先生、桜資料館に行ってきたよ」と言う子もいます。授業だけで終わらずに、興味が持続している子も出てきているので、そういう意味では学習の成果が出てきているのかな、と思っています。

今の社会科は、地理・歴史・公

民の三つに分かれています。公民というのは昔はなかったかもしれませんが、政治・経済について学ぶ単元です。

学習指導要領でも、社会科というのは「公民的思想の基礎を養う」ということが重視されていて、知識の習得だけではなく、未来の予測と言つては大袈裟かもしれませんが、思考の中に未来予測に近いものが生まれるように導いていくことが求められています。「持続可能な社会の形成」という言葉も入ってきています。

暗記型の社会科教育から、大きく転換したのが、前回の改訂のときだと思っています（教育内容の厳選と「総合的な学習の時間」の新設が特徴となっ

た2002年度（平成14）の改訂。このときの改訂の良いところを残し、改めるべきところは改めて、今回の改訂になりました（2011年度（平成23）に行なわれた戦後8度目の改訂。ゆとりでも詰め込みでもなく、知識、道徳、体力のバランスをとり、生きる力の育成の実現を目標）。

社会科は思考を大事にする科目です。そのために、事実を丁寧に見ることができるよう心がけています。

今回の原発事故の風評被害もそうですが、選挙のときにも誰かが優勢だという報道が流れると、みんながその候補にいつてしまったり。そうではなく、自分でしっかりと考えて判断する癖を身につけて

ほしい。自分で、事実をちゃんと確かめられる大人になってほしいなあ、という気持ちが強くあります。そういう基礎を、小学校のときから育んでいきたい、と思います。

今の時代は、インターネットを使ったりすることで、情報が取り出しやすくなっています。これは社会科から外れるかもしれませんが、「インターネットの情報も正しいとは限らないよ。じゃあ信頼できる情報はどこ集めるの？」という授業もしています。何が信用できる情報なのか。選択する側が賢くならないと。悪意のある情報もある、ということを知らないと。これが、理屈で終わるんじゃない

福光公園の中で
「ゴミをへらろ! 新聞」
No.1~No.3

町の中で「ゴミをへらろ! 新聞」
「ポイ捨てなくろ! 新聞」
No.1~No.5

福光公園の中で
「ゴミをへらろ! 新聞」
No.1~No.3

町の中で「ゴミをへらろ! 新聞」
「ポイ捨てなくろ! 新聞」
No.1~No.5

ポイ捨てなくろ! 新聞

| | | | | | |
|----|----|----|----|-----|-----|
| 53 | 26 | 45 | 64 | 225 | 402 |
| 78 | 19 | 65 | 86 | 175 | 416 |
| 72 | 24 | 67 | 91 | 237 | 434 |
| 45 | 26 | 56 | 84 | 124 | 275 |

ポイ捨てなくろ! 新聞

| | |
|-----|-----|
| 225 | 402 |
| 175 | 416 |

ポイ捨てなくろ! 新聞

| | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| 275 | 484 | 416 | 402 |
| 124 | 737 | 175 | 225 |
| 56 | 71 | 86 | 64 |
| 56 | 61 | 65 | 45 |
| 7 | 28 | 32 | 15 |
| 26 | 24 | 19 | 26 |
| 9 | 22 | 23 | 11 |
| 10 | 17 | 6 | 10 |
| 1 | 2 | 10 | 3 |
| 4 | 12 | 0 | 3 |

ポイ捨てなくろ! 新聞

ポイ捨てなくろ! 新聞

| | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|
| 3 | 3 | 10 | 11 | 26 | 15 | 45 | 64 | 225 | 402 |
| 0 | 10 | 6 | 23 | 19 | 32 | 65 | 86 | 175 | 416 |
| 12 | 2 | 7 | 22 | 24 | 28 | 61 | 71 | 237 | 434 |
| 4 | 1 | 10 | 9 | 26 | 9 | 56 | 56 | 124 | 275 |
| 10 | 3 | 11 | 13 | 12 | 10 | 55 | 81 | 211 | 406 |

ポイ捨てなくろ! 新聞

ポイ捨てなくろ! 新聞

| | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|
| 53 | 3 | 3 | 10 | 11 | 26 | 15 | 45 | 64 | 225 | 402 |
| 78 | 0 | 10 | 6 | 23 | 19 | 32 | 65 | 86 | 175 | 416 |
| 72 | 12 | 2 | 7 | 22 | 24 | 28 | 61 | 71 | 237 | 434 |
| 45 | 4 | 1 | 10 | 9 | 26 | 9 | 56 | 56 | 124 | 275 |
| 63 | 10 | 3 | 11 | 13 | 12 | 10 | 55 | 81 | 211 | 406 |

ポイ捨てなくろ! 新聞

て、子どもたちが生き生きと学べるようにしていきたいですね。

「なんでだろう」と
「ほら、やっぱり!」

〈博士勉強〉で記憶に残るものとして、去年の3年生の作品で、加納城の立体地図をつくった子がいて、地図を歴史的なことからつなげたことに感心しました。なんでここに城ができたのか、と考えていった結果です。歴史を地理的に切る、という着目点が面白いな、と思いました。

鎌倉幕府もそうですよね。なんであんな場所に幕府をつくったの?って、興味が湧きますね。それを調べながら考えていくのが、面白いところだと思います。

社会科で何か一つの事象を見せたときに「なんでだろう?」と疑問に思うことで、学習の課題ができます。そうしたら必ず「どう思う?」と予想させる。仮説を立てる。「こうなんじゃないかな」という仮説を立てるから、調べられるんです。

〈博士勉強〉でも、そのところをすくく大事にしています。闇雲に調べても仕方がないですから。どんなことが知りたいのかをはっきりさせて、そのことについてどんな予想ができるかな、と考えて

調べていけば、たとえ調べたことが答えに行き着かなくてもいいと思うんですよ。間違っていることがわかったら、「違う考え方をしてみよう。今度はこっちだ」と方向を変える。

授業のときに、子どもが違ったことを言っている、その予想に基づいて調べさせるんです。それで、違っていることを気づいても違って、方向転換する。でも、間違っている、そこでわかった事実だって一つの発見かなあ、学びかなあ、と僕は思います。

予想が合っていたときは、「ほら、やっぱり!」って、子どもはすくく喜びます。授業の中で、「ほら、やっぱり!」を聞くとうれしいですね。「ほら、やっぱり! 僕の予想合っちゃったよ」って言いますから。そういうのって、感動じゃないですか。こういうのが学ぶ楽しさかなって。

未来の可能性を広げるために

子どもって正直だから、ドリルとかの宿題は嫌いなんです。「先生、勉強って、何のためにするの?」って、真面目な顔をして聞くんですよ。それに対して僕はすくく明確な答えを一つ持っているんです。だから、いつも言っているんです

よ。「それは未来の可能性を広げるためだよ」って。

「将来になりたい職業とかって、今のみんなにあるかもしれないけれど、途中で考えが変わるかもしれないね。道が変わるかもしれないね。そのときにそっちの道に進んでいけるために、やっぱり勉強しておくべきだと思うよ」と。

自分が大人になったから、言うんですけどね。ああ、このことに15年前に気づいておいたら、と自分でも思います。

「大人になったから言えること」と杉浦先生は言う。でも、だからこそ子どもたちの未来にできることがある。学校の勉強が、それだ

自分で終わらずに生きるための糧となるためには、子どもたちの伸びる力を見守る師の支えが何よりも大切なだろう。未来の〈博士〉を、みんなで育んでいきたいものだ。

取材：2011年3月30日



| | | | |
|------------|---|--------------|-------------------------|
| 出品票 | | 個数・番号 | 2個のうち 2番 |
| 作品名 | めざせ 野口健! ゴミ拾いand ゴミへらし大作戦 | | |
| 学校名 | 山支阜大学教育学部附属小学校 | | |
| 学年 | 4 | ふりがな 名前 前 | まっ なが ゆう ひ 木 公 永 悠 彦 |
| 作品の説明 | <p>僕が以前、登山家の野口健さんの本を読んだ時、野口さんが富士山でなくいるところを知らず、僕も家の周りのゴミを拾ってみました。この時、予想以上にゴミが多くてびっくりしました。「ゴミを捨てるのが悪いのだ」とみんなが思わなければ、ゴミはなくならないと思う」と日記に書いていたら、担任の先生が捨てる人の意気を変えろにはどうした方がいいかとコメントを書いてくれました。僕は町にポスターをはたり、ビラを配り、よびかけをすればみんなの意気を変えられることができ、ゴミをへらせるのかなあ?」と思ったので、さいに活動かしてその結果を町の地図にしてみようと思いました。</p> <p>活動かしてみた結果、予想や希望とちがって、ゴミ感想(作り終えて思ったこと)は思ったほどではありませんでした。むしろ、長良川の花火大会の次の日は、ゴミがふえていたので残念でした。拾った結果を町の地図にしてみたら、ゴミの中では、いつもタバコの缶が少なく、牛車に人や車がたぐさん通ったり、バスが通る、大通りに多いけれど公園の中のゴミも多くなって、あかしのゴミや花火のゴミがあることや、花火大会の後には、食べ物のかすやアラスチ、クのトレーなどがいっぱい多いことが分かりました。この活動かで、ゴミに関心がある人たちがたぐさんいることが分かりましたが、すべての人にゴミのことを考えてもらい、ゴミを捨てるないようにしてもらうためには、もっと時間をかけて、もっとたぐさんの人といっしょに活動かする必要があるかなあと思いました。</p> | | |
| 作品の大きさ(cm) | たて 145.6 | 横 206 | 高さ |